

2016年 事業報告書

2016年1月1日から2016年12月31日まで

(特活)福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

1. 事業概要

特定非営利活動法人化して2016年10月で5年目となり、概ね計画通りの活動を展開でき、県内8児童養護施設での事業展開ができました。事業毎の活動実績は以下の通りです。

事業1: 福島県の児童養護施設入所者の健康状態の把握に係わる事業

(A)健康状態把握事業では、「健康手帳を卒園生に渡す事業」が4年目となり、2016年3月には卒園時に52名(6施設)の児童に贈ることができました。データ入力に間に合わなかった施設は卒園後の4月以降に訪問して元園生に、体温計(女子は婦人体温計)とバンドエイドそして手帳を入れるポーチと一緒に贈呈しています。普段使う体温計と一緒だと健康手帳の紛失が少ないと考えました。2014年末にできた1施設にも健康手帳電子化システム拡張機能児童支援記録付き(すこやか日誌)を導入できるように支援をしました

ソフトウェア「すこやか日誌」は、開発会社である福味商事から、福島県外の施設で販売することになりました。このソフトウェアで印刷できる「健康手帳」はライフストーリーワークの一部として、子どもが自分の成長や健康の軌跡を辿る手助けとなることを、福岡の研修会等で紹介しています。

(B)外部被曝のモニタリング事業は、2012年からホームごとの放射線量を、ポケット線量計で継続し続けていますが、新型の同型線量計10台を新規購入して、より正確に3施設で計測しています。

また、1施設では個人線量計(クイクセルバッジ 長瀬ランダウア)で継続測定をしています。

(C)内部被曝のモニタリングは、尿中セシウム検査を1施設において実施しました。尿検査に合わせた時期の1週間、地域小規模ホームを含む3カ所の食事を陰膳方式で放射能測定(ゲルマニウム半導体)で実施しました。

また、甲状腺エコー検査は、1施設で実施しました。

(D)予防接種に関する事業は、パイロットケースとして予防接種未接種者の対策を事例としてまとめました。これを全国児童養護施設協議会と共有しました。

事業2: 福島県の児童養護施設入所者の被曝に係わる事業

いわき育英舎のGM放射能測定機器の較正のための費用を、ドナーとマッチングできるように支援をしました。

事業3: 福島県の児童養護施設入所者の健康教育に係わる事業

(A)事業1に関する教育:

①健康手帳贈呈時に卒園児童を対象に健康教育の時間を設けました。

②クイクセルバッジ・ポケット線量計について新入職員を対象に結果の読み方等について説明をしました。

③甲状腺エコー検査実施時に10代以降の児童には、パンフレットを用いて検査目的と継続受診について説明をしました。

(B)勉強会としては「発達障がいを持つ児童の理解について」を1回開催できました。2施設の職員が参加しました。

事業4: 児童養護施設に従事する看護職等の専門職の連携推進に係わる事業

11月に医療的ケアの研修会(福岡)で発表の時間を得て、2013年に実施した全国調査の結果報告、児童養護施設での看護師の役割について問題提起をしました。

事業5: 市民を対象とした児童養護施設の子どもの健康に関する啓発活動に係わる事業

パンフレットを新しく作成しました。ニュースレターを2回発行しました。6月にニュースレター12号、12月にニュースレター13号を1200部発行しました。

ホームページには貸借対照表、2015年決算・事業報告をアップし、プライバシーポリシーのページを新設しました。

その他、第4回定時総会を2016年1月31日に開催し、2016年度の活動、予算の承認を得ました。また2016年~2018年の中期目標を設定しました。理事会は2月、6月、11月、3回開催しました。

助成金は「日本キリスト教海外医療協力会」「タケダ いのちとくらし 再生プログラム」「日本ルーテル教団 東日本大震災支援対策」「草の根応援基金」「独立法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業」、指定寄付として全国児童養護施設協議会・第10回西日本児童養護施設職員セミナー大阪大会実行委員会、ふくしまHOPEプロジェクトから受ける事ができました。また第3回道草チャリティコンサート、ロックキングオンジャパン、はらからの歌声、2010オリーブの木、他にも多くの団体、個人の寄付、会員(正会員29名、賛助会員75名 12月現在)により支えられました。